あらすじ
@人

yukinari

『空を泳ぐ人魚』

「足は必要ない。

　あたしたちは、空を泳ぐの」

****

　姿・性質はご想像におまかせ。

　っつうことで。

『仮面の、』

あれはいつも仮面を被っている。

見られたくないのは素顔ではない。

元妖怪という印を見せたいだけ。

同じ人間の、元妖怪に。

『魔法は新月の夜』

あたしの魔法は新月のみ。

月のない夜にしか魔法を使えない魔法使いの少女。

かけられた呪いが弱くなる朔にしか、魔力を得られない。

彼女は一夜だけ、自由を得る。

新月だけが、彼女の自由。

『元人魚』

あたしには、人魚の友だちがいる。

あ、ちょっと訂正。

＜人魚だった＞友だちがいる。

つまりは元人魚の女の子と、人間の女の子の話。

「拾ってくださいって書いたあったんだよ。

だから拾ったんだよ……」

――猫に拾われた人間って、

いったいこの世に何人いるのだろう。

世界でたった一人だけなのだろうか。

いや、違う。

こんな広い世界で、たった一人であるわけがない。

『元魔法使い』

あの人は元魔法使い。

昔、世界平和のために戦い、

全魔力を地球に捧げたことがある。

不老だった身体も、

今では廃れたババア。

今日は900回目の誕生日。

『週末魔女』

あの人は週末だけ魔女を楽しむ。

コスプレじゃない。

本来の姿に、戻るだけ。

『星を喰らう人』

あの人は星を喰う。

空に瞬く星の輝きを喰らう。

でも星は死なない。

再び生命を放つ。

そしてあの人は、

光を糧に、明日への一歩を踏み出す。

『稲妻採り』

あの人は、稲妻が来ると空ビンを抱えて外へ出る。

雷を集めるのか彼の趣味。

ピカっとなった後、

こぼれる光の欠片を拾うのだ。

『紙生み』

宙を飛ぶ鳥、
空を泳ぐ魚、
天かける天馬、
空中を走り回るネズミ、
空で気持ちよく寝る猫……

オレの目は正常だ。
にもかかわらず、目の前に広がるあの光景は何なんだ。

ハサミでちょきチョキ。
次から次へと不思議生物を生み出す三つ編み少女。

魔法なのは紙かハサミか。
それとも、彼女自身――。

『秘密隠しの国』

人はみな、どこかに秘密を隠してる。

・あの子はメイクにて素顔をバッチリ隠し、
・あの兄ちゃんは黒毛を茶髪で隠し、
・あのおじいさんは頭の古傷をニット帽で隠し、
・あの少女はリスカ痕をリストバンドで隠し、
・あの眼帯少女は妖を視ぬ為に片眼を隠し、
・あの少年は片目の青色を黒のカラコンで隠し。

で、そういうわたしも目を隠している１人。
ない目をグラサンで隠してる。

のっぺらはこれで、人にまみれる。

『神隠しのあと』

あの子は昔、神隠しに逢ったことがある。

行方不明から一週間。

彼女は元気のない様子で還ってきた。

しかしその表情はどこか満足げな感じもする。

あたしの知らない異世界で怪物を倒し、

ちょっとしたヒーローになってきたらしい。

『螺旋階段』

あの人は、いつも螺旋階段から降りてくる。

ビルの屋上から、だんだんと羽根を隠していく。

そして地上に降りたつころには、フツーの人間に。

普通の社会に溶け込んでいく。

『僕を語るに』

僕を語るには、

まず僕の経歴から知ってもらわねばならない。

****
個人的にこの出だし、
想像がいろいろと浮かぶ。

『前科なるもの』

死神をクビになった。

オレはまた、＜元人間＞として生きることになった。

****
ヒトの人生は積み重ねだ。

経歴――というものがある。

それは重なれば重なるほど、面白味を増してくる。

この男には＜死神＞という＜前科＞があり、
＜人間＞という前科があり、

――そしてもうひとつ……＜前科＞がある。

『死神』

「死を決めるのはオレじゃない。
死神っつうのは名ばかりさ。

本当の死神は、
オレらでも見えないんだからよ」

****
じゃあ　てめえは本物の死神じゃねえな。

というツッコミはあろうかと思う。

本物の死神って何だ？

と問うだろう。

＜神＞という存在は、
そういうものだ。

しかし、
見えない存在を追うのは非常に興味深い。

『雨遣い』

「雨を降らせてみせよう」

唐突に、隣の男がいった。

五秒もしない後、嘘のように水が頬に当たり、
やがて地面を、まんべんなく濡らしていった。
ただ、空は晴れていた。

「何をしてるの」
私は息をのむ。

「雨を降らしているんだ」
男はそういって、青になった横断歩道へと、
人ごみの中へと、溶けるように消えた。

****
そのあと彼女は、
お約束的にその男と再会とかね。

『元……』

「っていうか、結局みんな元人間でしょ？

悪魔だって天使だって魔女だって吸血鬼だって

みんなみんな人間だった。

力を得て、進化した。

違う？」

****

キャラクターのほとんどってみんな人間に似てる。

そういうのをみるとみんな元人間ではないのか？　と思うことがある

突然変異で力が生まれたとか、

異種結婚でそうなったとか、

何らかの契約でそうなったとか、

理由は様々かと。

＜元人間＞というのを考えると想像が尽ん。

『前科は死神』

俺は一般人だ。

――ただし、＜死神だった＞ことを除いては。

****

懐かしき思い出を語れ。

『未来人』

あの人は未来人。

3年前突然ここにやってきて、

今も元の時代に帰れずにいる。

『流れる血』

あの人の中には、

A型の血が流れてて、

人のことを想える血が流れてて、

次期当主の血が流れてて、

そして、

　――妖の血が流れてる。

あれは隠れた半妖だ。